RECSIE 緊急ウェビナー・シリーズ「新型コロナ禍と国際教育」

# コロナ禍と地球市民教育の課題

立命館大学 国際教育推進機構 教授 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長 堀江未来

2020年5月21日

### 自己紹介

- 名古屋大学教育学部・教育学研究科修士課程(比較教育学)
  - ・ 在学中、交換留学生として中国・南京大学で1年過ごす
- アメリカ・ミネソタ大学大学院教育政策行政専攻博士号取得
  - 教育政策+教育心理学+異文化コミュニケーション
  - 自分の個性や強みを発揮しつつ、多様性を尊重しながら社会貢献 できる人材育成の研究
- ▶ 南山大学・名古屋大学を経て 2009年立命館大学へ
- ▶ 2017年度より 立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長

# 立命館学園



▲ 立命館アジア太平洋大学 立命館アジア太平洋大学大学院

立命館高等学校 (京都)

立命館中学校 (京都)

立命館小学校 (京都)

立命館宇治高等学校 (京都)

立命館宇治中学校 (京都)

立命館慶祥高等学校 (北海道)

立命館慶祥中学校 (北海道)

立命館守山高等学校 (滋賀)

立命館守山中学校 (滋賀)



# 「学んだ子どもたちが、世界を変えていく」





# 「新たな価値を創造し社会に貢献できる グローバルリーダーの育成」



立命総小学校・平学校・高等学校での12年期 - 開教育のミッションは「新たな価値を創造し、社会に貢献できるプローバルリーダー 向資成。です、私たちを取り得く社会は、科学技術の革新的発展や国際社会のボーゲレス化によって、めまぐるしく変化しています。社会の一員としてその変化を少しても良い方向に導くため、これまでの価値報や常識にとらわれることなく、一人一が個にはとしての機能をしてともに、それぞれの恵度な専門性に基づく使命感をもちながら、文化や普語の違いを乗り越え、多様な人々とのあたたかな協力側のかでから走める多数がよめられます。

立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長 堀江 未来

社会の一員として(社会の急激な)変化を少しでも良い方向に導くため、これまでの価値観や常識にとらわれることなく、一人一人が個としての軸をもつとともに、それぞれの高度な専門性に基づく使命感を持ちながら、文化や言語の違いを乗り越え、多様な人々との温かな協力関係の中で歩みを進める姿勢がもとめられます。

「自主自立」「多様性の中で輝く個性」

#### 国際教育:異文化体験を通じての学びと成長

「異文化」自分の当たり前が当たり前でない世界の経験 コンフォートゾーンの外に自分をおく経験

・・・を通じて身につけられるスキル・姿勢

- オープンな心
- 違いを楽しむ気持ち
- 相互理解・尊重の姿勢
- 良い聴き手であること
- 柔軟な考えと行動
- 多面的な見方
- 立ち直る力
- 情報収集力
- 自己理解

- 好奇心
- 語学力
- 交渉力
- 観察力
- 忍耐力
- 省察力
- 想像力
- 自信

- 試行錯誤できる力
- 問題発見・解決力
- ストレス・コントロール
- 感情のコントロール
- 判断を保留する姿勢
- 創造性があること
- 曖昧さに対する許容
- ユーモア など

(BRIDGE Institute 2014)

## 国際教育:異文化感受性を育み、 自文化中心主義を乗り越える

- ▶ 自文化中心主義(Ethnocentrism)
  - ▶ 「『私たちのやり方が一番よい・正しい』と信じ、全ての物事を 自分の基準で判断・評価する心理的状態」 (Bennett 1993)
  - ▶ 「新しい情報は、すでに知っている情報との関連でしか認識・理解できないという、人間の特徴」(Mestenhauser 1976)
- ▶ 生まれ育った社会に「適合」していく上で、人として自然な状態。
- 異なる価値観の間でどのように折り合いをつけられるか?協力関係の中で新しい価値を創造するには?

Bennett, M.J. (1993). Towards Ethnorelativism: A Developmental Model of Intercultural Sensitivity. In R.M. Paige (ed.), Education for the Intercultural Experiences (pp.21-71). Yarmouth, ME: Intercultural Press.

Mestenhauser, J.A. (1976). Learning with foreign students. Minneapolis, MN: North Central Publishing Company.

### 異文化感受性を育む先に

- 自分は成長し続ける存在であるという自信。
- 失敗から学び、試行錯誤を粘り強く繰り返すことができる。何度でも挑戦する精神的強さ。
- 環境変化への対応に強くなる。新しい環境への適応過程を成長のチャンスとらえる。

### 新型コロナ禍にあって思うこと

- ▶ 国際教育を通じて育もうとしてきたスキルや姿勢は、急激な 社会変化を乗り越えるために役立っている
  - この経験を学びと成長に変える力
  - ▶ 柔軟性・適応力・創造力・未知への耐性
  - ▶ 自文化中心主義に引っ張られない:立場を超えた協力・助け合い・思いやり
- ▶ 国際移動はできないけど
  - ▶ オンラインで繋がるICTスキルの向上
  - ▶ グローバルな共通課題としての新型コロナ:それぞれの社会での反応の多様性
  - ▶ 新しい社会のあり方を、文化を超えて(自由に)考える

## 生徒たちへの問い

仮に、今自分が大人だと想定して、 何らかの職業をもっているとしたら、 それはどのような仕事で、どのように社会に貢献したいですか。